



★の数は難易度を示します

はじめに 2

第一問 ★ 加藤幸子「時の筏」..... 6

第二問 ★ 北杜夫「母の影」..... 18

第三問 ★★ 井上荒野「キュウリいろいろ」..... 28

第四問 ★★ 野上弥生子「笛」..... 40

第五問 ★★ 野中ともぞ「タイルを割る」..... 54

第六問 ★★ 横光利一「睡蓮」／篠田一士『機械・春は馬車に乗って』解説..... 68

第七問 ★★ 佐多稲子「三等車」..... 82

第八問 ★★ 牧野信一「地球儀」／萩原朔太郎「放蕩の蟲」..... 100

アクセス一覧..... 2
解説冊子

この本は、『入試現代文へのアクセス』シリーズ初の**実戦的問題集**として、**共通テスト対策用に編まれたもの**である。今までの『入試現代文へのアクセス』は、シリーズ全体で二二〇万部以上が受験生に受け入れられ、入試現代文への力をつける問題集の決定版として評価されてきた。その一方で、『入試現代文へのアクセス』シリーズで身につけた手法を、より実戦的な形で生かせるような問題集を求める声も多く寄せられてきた。そこで、最も多くの受験生が立ち向かうことになる共通テストの現代文の各問題に対応した『入試現代文へのアクセス 共通テスト編』を刊行することとなった。『入試現代文へのアクセス』シリーズに携わった執筆陣によるもので、実戦的な問題集ではあるが、「わかりやすさ」と「使いやすさ」というシリーズの特徴を堅持しながら編まれており、その点で、単なる模擬問題集とは異なっている。

なお『入試現代文へのアクセス』という、シリーズの表題は、

きちんと筋道を通して、入試現代文の正解に迫るⅡアクセスすること を意味する。

この問題集は共通テストの第2問、小説（Ⅱ文学的な文章）の問題に対応した8題で構成されているが、『入試現代文へのアクセス』の『基本編』もしくは『発展編』を学習した上で取り組むと、より効果的である。

本書は特に次のような諸君に最適である。

I 『入試現代文へのアクセス 基本編』もしくは『発展編』を終えて、共通テスト用に、より実戦的な力を養いたい。

Ⅱ 共通テストの過去の問題に取り組んだものの、混乱が生じてきて調子が悪いので、共通テスト対策の基本から実戦までの指針を確認していきたい。

本書の特徴

- ① **本文と設問のわかりやすい解説。** 文章を読む力を養うための「**本文の解説**」と、それに即した解答の選び方を「**設問の解説**」でわかりやすく示すことに全力をつくした。
- ② **必要にして十分な語句解説。** 現代文、特に共通テスト問題特有の用語の意味がわからずに苦しんでいる諸君のために、本文に出てくる重要語の「**語句の意味**」について、各問題の解説の最初に示してある。
- ③ **重要なメッセージⅡ「受験生へ」。** 多くの受験生が悩んでいる、共通テスト問題に取り組む際の心構えや注意点、あるいは課題の文章に関する知識や、キーワードの解説などを、「**受験生へ**」という題名で「**本文の解説**」の後に載せてある。
- ④ **基本的な読解のポイントⅡ《読解へのアクセス》。** 特に、「**本文の解説**」では、既存の『入試現代文へのアクセス』シリーズで用いた「**読解へのアクセス**」を兼用し、シリーズ全体で、文章を読む際の具体的な指針を一貫させている。

⑤ 解法のポイントⅡ《共通テストへのアクセス》。既存の『入試現代文へのアクセス』シリーズで用いた《正解へのアクセス》には、記述問題用の指針が多く含まれていた。そこで本書では、選択肢問題だけで構成される共通テスト用にこれらを再編成しつつ、新たな指針を追加して、共通テストへの取り組みに苦勞している諸君のために、『設問の解説』の中で《共通テストへのアクセス》という形で示し、ていねいに解説した。

⑥ 幅広く高度な読解力に結びつく文章選択。流動的な共通テストの傾向に対応できるよう、多様な分野の文章、しかも面白いものを載せることをこころがけ、共通テストに対応した力が総合的に養成されるように設問を練り上げた。

⑦ 直前期の心構えⅡ『直前期の受験生へ』。共通テスト直前期に不調を訴える生徒が多いので、《受験生へ》の延長ではあるが、解説冊子の最後に最終的な調整のアドバイスを列挙した（『直前期の受験生へ』の内容は「評論編」も「小説編」も同じである）。

⑧ アクセスの一覧と、語句索引。解説冊子の最初に《読解へのアクセス》と《共通テストへのアクセス（評論編に出て来たものも含む）》の一覧、巻末に『本文の解説』に出て来た「語句の意味」の語句索引を載せてある。

⑨ 文章中の表現についての配慮。本書の中には、現代において不適切と思われる表現を含む文章も見られるが、時代性を考慮してそのままにしてある。その一方で、今日あまり見かけなくなった送り仮名や表記については、あえて現代の標準的な形に変更したものもある。

本書の使い方

① 本書は、問題冊子と解説冊子で成り立つが、まず自力で問題冊子の問題を解いてみよう。各問題の解法時間は20〜25分が目安だが、特に前半の問題は、時間をあまり気にせずじっくり取り組んでもよい。

② 解き終えたら、解説冊子の「語句の意味」で基本語句の意味を押さえ、語句の知識を確認する。

③ 『本文の解説』を読み、自分の読みをチェックする。《読解へのアクセス》は特によく理解し、今後どういう点に注意して文章を読めばよいか確認しよう。

④ 『受験生へ』に書かれたメッセージをよく読み味わう。

⑤ 『設問の解説』を見ながら解答をチェックする。正解か不正解だけにこだわるのではなく、正解しても解答の筋道が正しかったか「設問の解説」を見てしっかり把握してもらいたい。《共通テストへのアクセス》は特によく理解し、共通テストへの順応力を強化していくこと。ましてや不正解だった場合は、より細かく設問の解説を読み、解法を理解してもらいたい。

⑥ しばらく時間をおいてから復習する。過去の共通テスト問題に取り組んだりしながら、調子が悪くなった時などに、もう一度この問題集の問題を解き直し、《読解へのアクセス》《共通テストへのアクセス》に焦点を当てながら、解答の指針を確認してもらいたい。解説冊子の最初にある一覧表を利用し、ウィークポイントを特に自覚して、何度もチェックしていくとよいだろう。

⑦ 直前期になったら、特に解説冊子の最後にある『直前期の受験生へ』などを参考にしながら、本書を読み直し、最終調整していこう。

共通テスト
への
アクセス

⑥	⑤	④	③	②	①
傍線部に指示語がある場合、その指示内容を押さえるよう	傍線部の前後の文脈をよく確認し、解答の方向を見極めるよう	正解ポイントや本文内容に反する(＝矛盾する)選択肢を消去していくこと	解答の根拠を見つけていくとらええことのない問題では、本文全体の主旨に即して解答を考えよう	設問をよく読み、何が問われているのかを正確につかもう	傍線部に指示語がある場合、その指示内容を押さえるよう
			○	○	
		○		○	○
			○	○	
			○	○	
	○	○	○		
			○		

第一問
第二問
第三問
第四問
第五問
第六問
第七問
第八問

⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦
複数デフストによる問題では、文章や資料を関連付けながら正解を選ぶ	設問が複数の文章にまたがる場合は、それぞれの文章の共通点と相違点に注意しよう	漢字の問題では同音異義語に注意しよう	設問に関わる本文中の箇所(解答ポイントとなる箇所)を限定しよう	傍線部やその前後と同じ話題や語句の出てくる箇所に注目しよう	選択肢同士を比較検討し、よりよい解答を選ぼう	筆者独自の言葉や表現の意味を正確に理解しよう	傍線部に特徴的な表現がある場合には、その表現の意味合いやニュアンスに気を配ろう
			○				
				○			
					○		
○							

次ページに
つづける

23	22
出題者によって創作された文章の中にヒントがあるかどうか も確かめてみよう	(注) の中にあるヒントを見逃さないようにしよう
○	○
○	○

21	20	19	18	17	16	15
設問同士の関係や整合性といった点にも注意してみよう	比喩的表現でたとえられているのは、どのようなことを正確に押さえるよう	語句の意味に関する問題は、語句の語意(辞書的な意味)に適合するものを優先しよう	表現の特色を問う設問では、該当する本文の箇所と選択肢をていねいに照合しよう	小説では必要以上に深読みしないようにしよう	小説では人物像を正確に把握しよう	心情の変化に注意しよう
			○	○	○	○
	○	○	○			○
○		○		○		
		○		○	○	
			○			

第一問
第二問
第三問
第四問
第五問
第六問
第七問
第八問

ことが必要になる（読解へのアクセス②）。さらに、親子関係を扱った小説の場合、自分の家の親子関係を投影して勝手な思い込みで誤読することしばしばあるので、読解に際しては先入観を排して本文を読み進めるよう心がけることが重要になる（読解へのアクセス③）。

③ 海辺の愉しみ（40～71行目）

母と滞在していた宿屋では、憧れのカツ・サンドを毎日のように食べ（52行目）、宿屋で何日も過ごす未知の体験に心躍らせた。何よりも海辺では、泳ぐ喜びを味わい、海辺の生き物に興味をもち、貝殻を収集するなど、愉しみに満ちた時を過ごすことができた（65～68行目）。

④ 子供の頃の私の性質（72行目～本文末）

父が（悪い）ところを息子が受け継いでしたった」と歌で嘆いていたが（80行目）、自分の部屋を持たない「私」は、押入れの下段にガラクタなどを持ち込み「そこ」そやっていた。ある年の大晦日に片付けようとしたが、片付けることができなかった。ともかく、内気な子供の「私」は、山だけでなく海にも魅せられたのであった。

■ まとめ

幼少期の夏休み……姉や妹や従兄と箱根の山荘で公園や森林で自由に遊び回った

← 小学校上級生の夏休み……葉山や逗子の宿屋で、个性的だが優しい母と過ごし、宿屋の滞在と、初めて海辺の体験に心躍らせた

← 私は、押入れにガラクタを持ち込んで「そこ」そする変わった子供だった

以上、「私」の体験を中心に整理してみたが、問2で問われている個性的な母や、父の人物像も、後述するように、正確に捉える必要がある。

受験生へ

前向き姿勢で本文に取り組もう

問題に取り組む際に、「読めなかったらどうしよう」「どれくらい点がとれるだろうか」などといった不安に苛まれて、読解がおろそかになることがある。文章を読むにあたっては、そうしたネガティブな雑念を排して、変な先入観も持たずに、本文に何が書かれているのか、積極的な興味や関心をもって読みはじめることが望ましい。たとえば、評論なら「今日は、何について、どんなことを述べている文章が出るのか」とか、小説なら「どんな人がどんな場面に登場して、何が起るのか、楽しみだな」といった前向き姿勢で取り組むのが理想的である。

設問の解説

問1 まず次の点に注意しよう。

共通テストへのアクセス①
設問に関わる本文中の箇所（解答ポイントとなる本文中の箇所）を限定しよう

傍線部の「子供たちの天国」は、本文冒頭から傍線部までに描かれた、箱根強羅の山荘で過ごした夏休みの日々を指している。ここに注目する。さらに、**読解へのアクセス**

⑦に従い、場面の正確な把握が必要になる。ポイントは、以下のとおり。

- a 宿題は少し出したものの、「日頃の学校の束縛から完全に脱して」（6行目）
- b 「窓に……近くの森林や強羅公園を遊びまわ」（2～3行目）
- c 「万物すべてが、種々の愉しみに満ち満ちていた」（4～5行目）

したがって、正解は④になる。「夏休みには日頃の学校

での束縛から解放され」がa、「自然に満ちた地で思う存分遊びまわらう」がb、「愉悅に満ちた時を過ごしていた」がcに該当する。

①「遊んでばかりもらえない大人の兄や姉と異なり」が誤り。兄は「大人の部類」だが、「姉目子や妹昌子の他に、同じ年頃の従兄（2行目）」と書かれているとおり、姉は大人ではなく、自分と同じ子供たちの一人である。**読解へのアクセス⑭**に従い、人物関係を正確に把握すること。

②「学校で厭な勉強を強いられる日頃の状況から解放され」が誤り。山荘での日々は「日頃の学校の束縛から」脱してはいたが、「勉強」そのものを「厭」がっていたとは書かれていない。「私」は「金免状」（75行目）をもらうほどの秀才であり、勉強を毛嫌いでいたわけではないと思われる。

③「大人になって振り返ってみると、避暑地の夏休みの日々は退屈なものでしかなかった」が不適当。この小説は、まさに「大人になって」「避暑地の夏休みの日々」を回想して、その「歓喜に満ちた」日々を生きて描いたものであり、回想してみても「退屈なものでしかなかった」わけではない。

⑤「子供たちだけで山荘に滞在し」が不適当。「大人の部

類」の兄もいるし、父が「強羅公園のプールに泳ぎにゆくのは、摂氏二十七度以上の暑い日以外は許さなかった」と書かれているので、父もしくは、父の意を受けて子供を管理する大人が山荘にいたと思われる。

問2 この設問も、**読解へのアクセス⑭**に従い、人物関係を正確に把握すること。そして、次のことも重要になる。

共通テストへのアクセス⑩
小説では人物像を正確に把握しよう

まず、「母」と「父」の人物像や、「私たち」との関係については、14～39行目に描かれている（**共通テストへのアクセス⑪**に従い設問に関わる箇所を限定しよう）。要点は以下のとおり。

- a 母は生まれながらの奔放な性格で、毅然たる精神の持主でもあった（14・27行目）
b 母は、WYCで習った「正統派のクロール」を誇示し、目立つ白い海水着と海水帽を身につけていた（16～21行目）
c 子供たちは、恥ずかしいので母と一緒に泳ぐこと

を選んでいた（26・27行目）

d 母は子供を甘やかしたりせず、待ち合わせに少しでも遅れると帰ってしまう厳しい面もあった（29～32行目）

e しかしふだん子と離れて暮らしているせいか、母は海では子供に優しく、ほとんど叱ることもなかった（33・34行目）

f 父は、自分の勉強にかまけて（11心を奪われて）しかし父は子供をほっぽっておいた（35行目）

g しかし父は厳しいところは実に厳しく、強羅公園のプールに泳ぎにゆくことを、27度以上の暑い日以外は許さなかったり、宿題が進んでいないと激怒したりした（35～38行目）

h 子供たちは父を煙ったく（11近づきに）思っていた（38行目）

i 子供たちは、母のほうにずっと懐いていた（38行目）

以上のポイントを確認した上で、選択肢を順番に見ていこう。その際、次の注意に従うこと。

共通テストへのアクセス④
正解ポイントや本文内容に反する（11矛盾する）選択肢を消去していこう

①「できるだけ母と一緒に行動しようとする」がcに反して誤り。子供たちは、水泳の時には母と一緒に行動しようとしなかったのである。

②「奔放に行動しながらも毅然とした態度」はa、「自分の信念を貫き」はbの正統派のクロールにこだわる態度に該当する。「たまにしか会えない子供に基本的な態度に該当する。」「たまたましか会えない子供に基本的な態度に接する母を慕わしく思う」がeとi、「自分の勉強に忙しく厳しい父」がfとg、「近づきにくいものを感じている」がhに該当する。ポイントをよく押さえていて、本文内容に反する点もないので、これが正解になる。

③ 父が「子供たちを氣遣うこともせずに」がgに反して不適当。気温の低い日にプールで泳ぐのを禁止したのは、子供たちの健康を氣遣つてのことだと考えられる。また「子どもたちを」叱つてばかりいる」もfに反している。

④「母に違和感を感じる」一方で、……父をひそかに尊敬し親しみを感じている」がhとiに反している。母に親